

2025年度 講義要綱

科目	コミュニケーション I	必修 講義	講師	加莉 則子
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスを一つの集団とみなし、集団として成長していく過程を体験学習する。</li> <li>・保育者に必要とされるコミュニケーション力を養う。</li> <li>・認定絵本士養成講座科目を学び絵本への理解を深める。(該当科目6コマ)</li> </ul>			
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己洞察力を養い、安定した人間関係を養えるようにする。コミュニケーション能力を身に付ける。</li> <li>・社会人としての自己像を明確にする。</li> <li>・我が国の読書推進活動に関する施策の経緯について理解する。受講者同士の相互理解を深め絵本専門士の役割について確認する。(認定:「オリエンテーション」なかむらしんいちろう・鈴木八重子)</li> <li>・相談者の要望に応じた絵本を提案する技術を体得する。絵本の提案の前提となる、絵本に係る情報収集及び整理の方法について理解する。(認定:「絵本の世界を広げる技術③」なかむらしんいちろう)</li> <li>・公共図書館の行う児童サービスについて理解する。地域の読書活動推進活動における絵本をめぐる活動の展開を理解する。(認定:「絵本と出会う③」千葉幸)</li> <li>・絵本の内容及び特質を客観的に捉えることについて理解する、書評及び紹介文の書き方を体得する。(認定:「絵本を紹介する技術②」横山雅代)</li> <li>・障害者、病児及び高齢者等絵本の選択や紹介にあたり、特に配慮を必要とする人について理解する。(認定:「絵本を紹介する技術③」千葉美香)</li> <li>・絵本を活用した表現活動について理解する。絵本を活用した表現活動の基礎的技術を体得する。(認定:「絵本のある空間」なかむら・加藤ふじこ・やまじひとみ)</li> </ul>			
到達目標1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認定絵本士養成講座科目を学び、絵本に関する総合的なプロデュース力を身につけることができる。計6コマ</li> </ul>	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度・課題提出 50点	
到達目標2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者に必要とされるコミュニケーション力を養い、進路決定に必要な基本的知識、スキルを活用できる。</li> </ul>	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度 50点	
授業方法	コミュニケーション力を高めるために、レクリエーションゲーム、課題解決学習、ロールプレイ、行事企画等、様々な形の学習を体験する。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 4/9 オリエンテーション</li> <li>2 4/16 クラス活動①</li> <li>3 4/23 三浦サニー先生のコミュニケーションプログラム(ND1a 水1限 9:00~10:30 4月23日(水))</li> <li>4 5/7 クラス活動②</li> <li>5 5/14 クラス活動③</li> <li>6 5/21 産学連携</li> <li>7 5/28 クラス活動④</li> <li>8 6/4 クラス活動⑤ オンライン週</li> <li>9 6/11 クラス活動⑥</li> <li>10 6/18 クラス活動⑦</li> <li>11 6/ 25 クラス活動⑧ オンライン週</li> <li>12 7/2 産学連携</li> <li>13 7/9 クラス活動⑨</li> <li>14 7/16 クラス活動⑩</li> <li>15 7/23 クラス活動⑪ 前期終了</li> <li>16 9/10 オリエンテーション 後期</li> <li>17 9/17 クラス活動⑫</li> <li>18 9/24 【認定絵本士養成講座科目】「オリエンテーション」担当:なかむらしんいちろう・鈴木八重子</li> <li>19 10/1【認定絵本士養成講座科目】「絵本と出会う③」担当:千葉幸</li> <li>20 10/8 クラス活動⑬ オンライン週</li> <li>21 10/15 産学連携</li> <li>22 10/22 【認定絵本士養成講座科目】「絵本の世界を広げる技術②」担当:なかむらしんいちろう 課題提出</li> <li>23 10/29 【認定絵本士養成講座科目】「絵本を紹介する技術②」担当:横山雅代</li> <li>24 11/5 就職に向けて(1)担当就職相談室</li> <li>25 11/12 【認定絵本士養成講座科目】「絵本を紹介する技術③」(支援が必要な人々や高齢者への絵本の役割) 課題提出</li> <li>26 11/19 クラス活動⑭ オンライン週</li> <li>27 11/26 産学連携</li> <li>28 12/3 【認定絵本士養成講座科目】「絵本のある空間」担当:江花志乃</li> <li>29 12/10 就職にむけて(1)担当就職相談室</li> <li>30 12/17 クラス活動⑮ 後期最終日</li> </ol>			
必須テキスト	【認定絵本士科目】認定絵本士養成講座テキスト			
参考文献				
担当教員の専門分野等	<p>加莉 則子:実務経験のある教員。          【認定絵本士養成講座担当講師】 ○なかむらしんいちろう:講座責任者・絵本を活用したワークショップの企画及び実践経験を持つ者 ○千葉美香:障がい者、病児、高齢者、特に配慮を要する人及び当該者向けの絵本に精通した者 ○江花志乃:書店における絵本の売り場づくり、及び、絵本の出版流通に精通した者 ○千葉幸:図書館司書業務と、地域の読書推進活動における絵本をめぐる活動の現状に精通した者 ○横山雅代:書評に関する専門的知識を有する者 ○加藤ふじこ・やまじひとみ:絵本を活用したワークショップの企画及び実践経験を持つ者</p>			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	10 %

2026年度 講義要綱

科目	保育と外国語	必修 講義	講師	金藤 明美
授業概要	<p>本授業では、保育現場で活用できる幼児への基本的な英語の語りかけ表現を学ぶとともに、幼児と一緒に楽しめる英語の歌やゲーム、さまざまなアクティビティを体験しながら実践的に英語を身につける。さらに、初対面の場面などで使える基本的な英会話表現についても学習する。また、机上での学習だけでなく、表情やジェスチャーなどの非言語コミュニケーションにも意識を向け、体験的な活動や練習を通してコミュニケーション力を高めることを目指す。加えて、英語教育や保育に関連する有益な情報を共有することで、英語への興味・関心を深める。</p>			
授業目標	<p>1.保育現場で使用する基本的な英会話表現を繰り返し練習することで、表情やジェスチャーを取り入れた自然で表現豊かな発話力を身につける。また、幼児と一緒に楽しめる英語の歌やさまざまな活動を体験的に学び、それらを保育の現場で活用できる力を養う。</p> <p>2.初対面の場面で用いられる英語表現を学び、英語によるコミュニケーションの楽しさや大切さを理解しながら、積極的にやり取りする姿勢を育てる。</p>			
到達目標1	・保育現場において、幼児たちに語りかける為の基本的な英語表現を場面別に習得する。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	筆記試験【50点】	
到達目標2	・初対面英会話の習得ができる。 ・自己紹介・Show and Tellの体験ができる。 ・非言語によるコミュニケーションの体験ができる。 ・幼児と楽しめる英語の歌・活動の体験ができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	<p>・初対面会話の口頭試験【30点】</p> <p>・発表体験:①自己紹介(ミニブック提出含む) ②Show and Tell 2つの小計【20点】</p> <p>※発表内容の出来栄により加点あり ※出席・授業態度は加点対象</p>	
授業方法	<p>対面 ・全体練習・グループ練習・ペアワークなど、多様な形での学習 ・音源・(絵)カード・具体的な教具を使用した学習</p> <p>オンライン ・ICTの活用</p>			
授業計画	<p>1 講義要綱 ①コミュニケーションKeys ②保育現場での英語教育について ③Hello Song/英語であいさつ ④自己紹介表現 ⑤幼児の為の英語表現練習ー誉め言葉</p> <p>2 ①バーバル・ノンバーバルコミュニケーション ②自己紹介表現(ミニブック作成) ③幼児の為の英語表現練習ー誉め言葉・励ます言葉 ④英語の歌</p> <p>3 ①幼保英語検定 ②フォニックスってな〜に? ③自己紹介表現練習 ④初対面英会話練習 ⑤幼児の為の英語表現練習ー公園編(単語レベル)</p> <p>4 ①フォニックスの練習 ②自己紹介発表 ③幼児の為の英語表現練習ー公園編(文レベル) ④英語の歌</p> <p>5 ①世界のLunch+世界の幼稚園 ②初対面英会話練習 ③幼児の為の英語表現練習ー食事編(単語レベル) ④Show and Tell 準備</p> <p>6 ①Halloweenのお話 ②Show and Tell 体験 ③初対面英会話練習 ④幼児の為の英語表現練習ー食事編(文レベル)</p> <p>7 ①トイレのお話し ②初対面英会話練習 ③幼児の為の英語表現練習ートイレ・身支度編(単語レベル) ④英語の歌</p> <p>8 ①Multiple Intelligence(多重知能理論) ②初対面英会話練習 ③幼児の為の英語表現練習ートイレ・身支度編(文レベル) ④英語の歌</p> <p>9 ①保育関係(者)の英語名称と英語圏で働く保育士さんの声 ②初対面英会話練習 ③幼児の為の英語表現練習ーその他の表現(単語レベル)</p> <p>10 ①初対面英会話練習 口頭試験 ②幼児の為の英語表現練習ーその他の表現(文レベル) ③筆記試験の為の復習</p> <p>11 ①子供幸福度ランキング ②絵本とその活動 ③総復習</p> <p>12 ①筆記試験 ②世界幸福度ランキング</p> <p>13 ①絵本とその活動 ②感想</p> <p>14 中国語</p> <p>15 韓国語</p>			
必須テキスト	English For Use in Nursery Schools			
参考文献				
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。長年に渡り英語教室運営。北区外国語教育アドバイザー。アルクこども英語・小学校英語関係出版物執筆協力。読売KODOMO新聞「やってみよう!」共同監修。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	40 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	必修 講義	講 師	高見 美恵子	
授業概要	乳幼児期・児童期に必要な効果的な、「コーディネーション運動」及び、子どもたちが楽しみながら参加するための実践技法である、「共感するコーチング」について理解し実践できる技能を身につける。			
授業目標	1、コーディネーション運動と関連する科学的根拠についての知識を習得する 2、共感するコーチングの関連する科学的根拠についての知識を習得する 3、共感するコーチングを活用したコーディネーション運動を実践する 4、立てたねらいに沿った実践案を作成し実践する			
到達目標1	コーディネーション運動と共感するコーチングおよび関連する科学的根拠について具体的に説明できる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(30点)、講義内容に関する筆記試験(20点)	
到達目標2	各コーディネーション能力を向上する 実践案の作成と共感するコーチングを活用した実技の実践ができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループ学習の主体性(10点)、実践案(10点)、実技試験(15点) 振り返りシート(15点)	
授業方法	実技、座学、グループ学習、オンライン授業を含む			
授業計画	1 「授業概要・目標・評価方法・持ち物の説明・授業の進め方」「運動神経について」 2 コーディネーション運動の体験、「コーディネーション能力」 3 乳幼児期・児童期におけるコーディネーション運動の効果、コーディネーション能力 4 「展開の形式」「遊びの要素」について 5 「コーディネーション能力」「展開の形式」「遊びの要素」の体験と実践 6 共感するコーチング、「軸移動」「プレスト」について 7 共感するコーチング、「軸移動」「プレスト」の体験、実践 8 共感するコーチング、「動機づけ」「must & will」「ユーモア」について 9 共感するコーチング、「動機づけ」「must & will」「ユーモア」の体験、実践 10 実技試験グループ分け、実技試験の実践案立案 11 筆記試験、実技試験の実践案立案 12 実技試験の実践案記入・練習 13 実技試験と振り返り① 14 実技試験と振り返り② 15 実技試験と振り返り③			
必須テキスト	「楽しみながら脳を育てる 幼児のためのコーディネーション運動」 明治図書出版株式会社 (ピンク色)			
参考文献				
担当教員の専門分野等	「実技経験のある教員による授業」に該当。保育園・公共施設・主催教室などの親子・幼児・児童・シニア対象講座、イベントにてコーディネーション運動講師を担当。子育てにも生かせるコーディネーション運動セミナー講師担当。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	30 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	情報機器の操作 必修 講義	講 師	酒井 澄	
授業概要	情報に関する知識、情報機器操作の基礎知識を身につける。			
授業目標	情報社会の中でどう生きていくかを考えます。 Office (Word、PowerPoint、Excel)の基礎を身につけます。 その他、インターネットの光と影の部分を知り、自分がどうあるべきか考えます。 保育現場で活用できる映像の作り方、読み聞かせの基礎(絵本の読み方とは異なる)などを身につけます。			
到達目標1	Office (Word、PowerPoint、Excel)の基礎を身につけます。 書類、お知らせを作る。 プレゼンテーションをする。 表計算、グラフを作る。 これらの知識を身につけ、保育に活用できるようにする。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(40点) パソコン操作の苦手な人がいますが、これにより評価が下がることはありません。取り組み度を評価します。 協調性(10点)	
到達目標2	情報に関する知識、特にインターネットの知識を身につける。 読み聞かせのこつを知る。 保育映像記録や、遊びとしての映像作りの基礎知識を知る。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(10点) 講義内容に関する筆記試験(40点)	
授業方法	パソコン授業は学校のパソコンを使用していますが、自分のパソコン持ち込み可能です。Macもフォローします。 officeの授業は基礎知識で高度な取組はいたしません。 パソコンが苦手な人でも安心して学べるようにする方針です。 学校のパソコンはパソコン内に作ったデータを保存できません。 授業が次の週に続くとき、途中の工程を保存するために自分のUSBメモリなどを使い保存することを希望します。			
授業計画	1 一人ひとりのコンピュータに対する理解度を確認し、Wordの基礎から始めます。 2 Word 3 Word 4 PowerPoint 5 PowerPoint 6 PowerPoint 7 Excel 8 Excel 9 Excel 10 Excel 11 インターネットの光と影 12 インターネットの光と影 13 本の読み聞かせ(ナレーション技術) 14 試験 15 子供たちと作る映像や、撮影記録の仕方。			
必須テキスト	ありません。			
参考文献	インターネットの光と影ver.7/北大路書房			
担当教員の専門分野等	1974年より映画テレビの制作会社勤務。職種:プロデューサー 担当作品:風の谷のナウシカなど。 2004年より映像制作会社を起業。職種:ディレクター&カメラマン。内容:保育、音楽や企業などの記録やプロモーションなど。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	50 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	子ども家庭支援論 必修 講義		講 師	前川 洋子
授業概要	家庭という視点から支援のあり方を理解する。家庭生活を取り巻く様々な社会的状況について把握し、問題の所在や支援方法を学ぶ。社会福祉の視点も含み、家庭支援の基本的な知識と専門性について学ぶ。			
授業目標	1. 子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。 2. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。 3. 子育て家庭に対する支援の体制について理解する。 4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。			
到達目標1	家庭支援を基盤に保育士の行う相談等の意義と資源の活用、関係機関との連携を説明することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(20点)、理解度確認の小テスト課題(30点)	
到達目標2	ニーズに応じた多様な支援の展開と家庭支援の現状、課題を説明できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	討論への貢献度(20点)、発表・レポート(30点)	
授業方法	講義型 ICTを活用した理解度チェックとフィードバックを行う。地域の子育て家庭支援策の課題提出と発表を行います。			
授業計画	1 1.オリエンテーション 子ども家庭支援の意義と必要性 2 2.家族システムと家庭 家庭機能の低下 3 3.保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義 4 4.保護者との相互理解と信頼関係の形成 5 5.保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援 6 6.支援における保育士の基本的態度 7 7.子育て家庭の抱える課題の理解と支援家庭の状況に応じた支援 8 8.地域の資源の活用と自治体・関係機関との連携・協力 9 9.子育て家庭の福祉を図るための社会資源 10 10.国策・自治体の子育て支援策及び子ども家庭支援に関わる法律 11 11.多様な支援の展開と関係機関との連携 要保護児童等及びその家庭に対する支援-1 12 12.保育所等を利用する子どもの家庭への支援 要保護児童等及びその家庭に対する支援-2 13 13.地域の子育て家庭への支援 課題発表1 14 14.地域の子育て家庭への支援 課題発表2 15 15.子ども家庭支援に関する日本の現状と課題 世界の子育て支援国際比較より 総まとめ			
必須テキスト	松本園子、永田陽子他『子ども家庭支援論』ななみ書房 2023年			
参考文献	保育者のための子ども家庭福祉データブック2025 中央法規 2024年			
担当教員の専門分野等	教育カウンセラーとして子育て相談員及び社会福祉法人の第三者委員。大学通信教育テキスト『子ども家庭支援論』『特別支援教育』他、『保育の心理学演習ブック』ミネルヴァ書房他執筆			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち学び続ける力	40 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	20 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	保育者論 必修 講義	講 師	菊池 一英	
授業概要	保育者の役割について学び、保育の歴史の中で保育士の制度的位置づけを理解する。 また、保育士をめぐる現代的な課題について、深く知り、課題解決の方略についても、模索する。 合わせて、保育者の地域・家庭支援とそのことをめぐる、保育者の連携・協働について考察する。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育者の役割と倫理について理解する。</li> <li>2. 保育士の制度的な位置づけを理解する。</li> <li>3. 保育士の専門性について考察し、理解する。</li> <li>4. 保育者の連携・協働について理解する。</li> <li>5. 保育者の資質向上とキャリア形成について理解する。</li> </ol>			
到達目標1	1. 保育者の歴史的役割と先達の保育者から、保育の専門性をめぐる資質・能力を理解することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	グループワーク討論への参加度(20点)リアクションペーパーの提出(30点)	
到達目標2	実際の保育現場でのビデオ視聴を通して、保育者として専門的知識を生かし、保育場面を考察することができる。 合わせて、年間の保育計画を年齢発達に沿って、立てることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	2. 保育計画の提出(20点)リアクションペーパーの提出(30点)	
授業方法	講義形式、グループワーク討論、ビデオ視聴、			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション(授業の進め方)自己紹介、保育者を目指した理由</li> <li>2 保育士をめぐる現状とは？5つのギフト</li> <li>3 保育の歴史と保育者(士)の成り立ち</li> <li>4 先達の保育者(倉橋惣三)から学ぶ</li> <li>5 保育者を支える発達論(ポルトマン、スキャモン、リーキー、トマセロ、コーバリス)</li> <li>6 先達の保育者(津守真)から学ぶ</li> <li>7 先達の保育者(加用文男)から学ぶ</li> <li>8 保育者が過ごす一日(ビデオ学習)</li> <li>9 保育者が子どもを記録する事例研究(ドロケイ遊び①②)※十の姿を探す</li> <li>10 保育者が身に付ける「身体性」「他者性」「共感性」ファンタジー遊びを通して(ビデオ学習)</li> <li>11 保育者が経験する行事&lt;運動会&gt;(ビデオ学習)</li> <li>12 保育者にとって、保護者支援とは何か？(ビデオ学習)</li> <li>13 ①保育者が考える「理想の保育園」「保育計画」</li> <li>14 ②保育者が考える「理想の保育園」「保育計画」</li> <li>15 グループ発表(感想、評価、まとめ)</li> </ol>			
必須テキスト	特になし			
参考文献	『仲間づくりのためのおもしろゲーム遊び』菊池一英メイト、他に何冊か授業内で紹介します			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。保育所に副園長兼保育士として長年勤務。 現在幼児体育講師として保育所にスーパーバイザーとして非常勤務。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	20 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	20 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	子ども家庭支援の心理学 必修 講義		講 師	森脇 晋
授業概要	様々な福祉施設の実習経験から、各現場の「実際の支援/実践」の様子、「支援の視点」「支援の特徴」等、学びをまとめて発表し、他者と共有する。子ども、子育てをめぐる現状や、多様な支援の在り方への理解を深める。			
授業目標	1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。 2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。 3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。 4. 子どもの精神保健とその課題について理解する。			
到達目標1	自らが実習した現場の実践や、支援特徴についてまとめ、発表することができる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	グループワークへの参加姿勢・発表 (50点)	
到達目標2	自他の発表や講義から、自らが目指す支援者像や「家庭支援」を心理学的視点から深めることができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	学期末まとめシート (50点)	
授業方法	グループワークや発表を伴う講義受講 ※発表に関しては、発表者の進捗により授業回の内容が前後することがある。			
授業計画	1 オリエンテーション(授業概要・目標・方法・評価・持物・グループワークの進行等の説明) 2 グループワーク(各自の経験、実習目標に対する振り返り) 3 グループワーク(成功・失敗体験による振り返り) 4 グループワーク(バイステックの7原則による振り返り) 5 グループワーク(施設の役割・機能による振り返り) 6 グループワーク(報告書のまとめ) 7 グループワーク(発表資料の作成) 8 発表① 社会的養護施設(児童養護施設): 子ども理解 9 発表② 社会的養護施設(乳児院/母子生活支援施設/児童相談所): 子ども理解 10 発表③ 児童発達支援センター: 多様な家庭とその理解 11 発表④ 障害児入所施設: 子どもの生活・生育環境とその影響 12 発表⑤ 障害者入所施設: 生涯発達/心の健康に関わる問題 13 発表⑥ 障害者通所施設: ライフコースと仕事・子育て 14 子ども家庭支援の現場からみた保育者へのメッセージ 15 まとめ: 施設実習を通した子ども家庭支援の心理学と自己覚知			
必須テキスト	特になし			
参考文献	授業中に適宜紹介する			
担当教員の 専門分野等	母子生活支援施設の施設長として施設実習に携わってきた経験、自治体の子ども家庭支援員としての経験、保育養成施設の施設実習指導に関わってきた経験、保育所や施設実習先の実習担当者と連携してきた経験等をもとに、実務者教員として施設実習を通した子ども家庭支援の心理学的立場における自己覚知を支援する。			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	15 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	25 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	保育内容演習・健康 必修 講義	講 師	菊池 一英	
授業概要	生涯に渡り「健康な生活」を維持していくために、体育(幼児体育)がどのような貢献ができるか、そのための知識・技能を身に付ける。			
授業目標	1. 健康とは、体育とは、運動能力とは、発育、発達、成長とは、どのような言葉の概念規定があるかを歴史的、文化的、生理学的に学び習得する。 2. 具体的な保育場面を想定して環境構成や体育場面での基礎知識を身に付けることができる。			
到達目標1	1. 保育現場を想定して、実際の指導内容を、年齢発達に沿って把握することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組みへの貢献度(20点) リアクションペーパー提出する(30点)	
到達目標2	2. 幼児の発育、発達の特徴を踏まえ、各年齢に合わせて、保育の方法、保育課程を理解することができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループワークトークキングへの参加度(20点) リアクションペーパーを提出する(30点)	
授業方法	講義形式、グループワークトークキング(GWT)			
授業計画	1 オリエンテーション(授業概要、目標、評価等) 領域「健康」の中での幼児体育の位置づけとは何か？ 2 健康観の変遷 3 体育、幼児体育の歴史の変遷※オンライン 4 幼児体育の意義と社会的背景とは？ 5 幼児期の身体発達と運動能力の特徴 6 幼児期に体力をつける、運動能力を伸ばすとは？ 7 ストレッチと体育活動 8 新しい健康観(QOLとヘルスプロモーション)※オンライン 9 保育現場での体育活動の実際(設定保育と自由保育)※DVD視聴 10 ストレスと運動 11 体温調節機能と運動時の発汗 12 運動遊びと保育者の関り 13 健康育成における保育者の関り 14 安全管理と安全教育 15 健康と野外活動(DVD視聴)※授業を終えて(感想文)			
必須テキスト	特になし			
参考文献	特になし			
担当教員の 専門分野等	「実務経験のある教員による授業」保育所に副園長兼保育士として長年勤務。現在幼児体育講師として、保育所にスーパーバイザーとして非常勤勤務。			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	10%	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10%
	社会人としての基本	20%	主体性 素直 思いやり	10%
	他者と関わる力	30%	専門的知識・技術	30%

## 2026年度 講義要綱

科 目	保育内容演習・人間関係		必修 講義	講 師	小林 桂子
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児期にみられる人間関係において、多方面からの支援と自立への導きについて。</li> <li>・保育を取り巻く人間関係について、実践を踏まえ、理解を深める。</li> <li>・すぐに使えるように！人間関係に関わる手遊び、ゲーム等の技術の習得。</li> </ul>				
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。</li> <li>2. 子どもの発達を、保育所保育指針における乳児保育の3つの視点(「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものに関わり感性が育つ」と、1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育のそれぞれ5つの領域(「健康・人間関係・環境・言葉・表現」)を通して捉え、子どもに対する理解を深めながら、保育の内容について具体的に理解する。</li> <li>3. 上記2に示した保育の内容の視点及び領域を踏まえて、子どもが生活や遊びにおいて体験していることを捉えるとともに、保育に当たって保育士が留意、配慮すべき事項を理解する。</li> <li>4. 子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら、環境の構成、教材や遊具等の活用と工夫、保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)の実際について理解する。</li> </ol>				
到達目標1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの人間関係で、「この問題(経験)から何を学ぶことができるのか(どのような生きる力を身につけられるのか)」という視点で考えることができる。又、保護者との関わり方を考えることができる。</li> </ul>	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間関係において、保育現場を想定して考えられているか、授業後の課題の提出(50点)</li> </ul>		
到達目標2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちの人間関係において保育者が「気づく力」「考える力」を身につけることができる。</li> <li>・人間関係を築いていく上で「心の自立」「人と関わる力」がなぜ大切なのかを理解し、そのための支援の方法を考え、説明できる。</li> </ul>	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内容やグループワークで自分なりの気づきや考えを記入(30点)</li> <li>・講義内容に関する筆記試験(20点)</li> </ul>		
授業方法	PowerPoint、資料プリントを使用。グループワーク等。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション授業概要(目標・評価等の説明)</li> <li>2 人間関係の第一歩は「自分と向き合う」こと 子どもや保護者と向き合うために自分を知るということの大切さを考えます</li> <li>3 保育における信頼関係について① 「信用の関係」「信頼の関係」から保育で何が大切な関係なのかを考えます</li> <li>4 保育における信頼関係について② 「ほめる」「叱る」は本当に子どもの心に届いているのか・どのような対応ができるのか考えます</li> <li>5 「ごめんね」「いいよ」は本当の解決なのか・子どもが、自分や相手の気持ちに合った対応を考えます</li> <li>6 「いじわるなど、嫌なこと」が起きた時にどのような向き合いや対応が大切なのかを考えます</li> <li>7 クレーム等の事例から悩む保護者にどのような対応ができるか考えます</li> <li>8 いい子が陥りがちな人間関係を事例をもとに「大切なことは相手にとっていい子であることなのか？」を考えます</li> <li>9 発達段階で子どもが「相手の立場に置き換えて考えること」の難しさを「ヒーローごっこ(たたかいごっこ)」を事例に考えます</li> <li>10 子どもの主体性(自らやってみよう!)を生み出す言葉かけを考えます</li> <li>11 人間関係におけるボードゲーム(SSTにも使われている)の活用から得られる人間関係を考えます</li> <li>12 その関わりは本当に子どもを尊重しているのか？事例や資料、講師の失敗談から尊重し合う人間関係を考えます</li> <li>13 子どもの月齢・特性・発達・それぞれに違う人間関係の育ち・今日的課題を考えます</li> <li>14 人間関係における集団あそびの有効性・試験対策</li> <li>15 筆記試験(考えて答える記述式・ノート・資料プリントのみ持ち込み可)</li> </ol>				
必須テキスト					
参考文献	授業中に紹介、適宜プリントにて配布します。				
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。 幼稚園、保育、児童センター(大型児童館)、現在は放課後児童支援員、短期大学非常勤教員として勤務。保育の現場に30年以上携わっています。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	30 %	専門的知識・技術	20 %	

## 2026年度 講義要綱

科 目	保育内容演習・環境 必修 講義	講 師	村山 久美	
授業概要	乳幼児を取り巻く環境(自然・モノ・事象・文字、記号・地域・文化)に着目し、これらが子どもの発達に重要な役割を果たすことを理解する。			
授業目標	1. 子どもを取り巻く環境を理解する。 2. 乳幼児の発達に応じた「環境」のねらい及び内容を理解する。 3. 環境構成や保育実践の展開を理解する。			
到達目標1	領域「環境」のねらい、内容を理解し、説明することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(20点) 講義内容に関する筆記課題(30点)	
到達目標2	保育に関する環境への関心を深め、子どもの発達に即した保育実践を考えることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	討論への貢献度(20点) 発表、レポート(30点)	
授業方法	講義(ICTの活用、協働学習を含む)			
授業計画	1 オリエンテーション(講義の概要とねらい) 2 子どもを取り巻く環境 3 身近な環境との関わり、感性の育ち 4 モノともかかわりを通して生まれる育ち(学び) 5 自然ともかかわりを通して生まれる育ち(学び) 6 社会ともかかわりを通して生まれる育ち(学び) 7 領域「環境」のねらい及び内容 8 乳児保育における環境ともかかわり 9 モノともかかわりを支える保育の展開 10 自然ともかかわりを支える保育の展開 11 社会ともかかわりを支える保育の展開 12 領域「環境」と小学校教育のつながり 13 現代的課題と保育 14 子ども・保育者・保護者の育ちあい、まとめ 15 試験			
必須テキスト	ミネルヴァ書房『保育内容「環境」』			
参考文献	『スラスラ書けるコツを伝授！保育実習の日記・指導案書き方まるわかりBOOK』ナツメ社 『保育所保育指針』			
担当教員の 専門分野等	実務経験のある教員による授業。保育所園長歴10年。「言葉」「子育て支援」「実習指導」を専門に研究。研究実績あり。『スラスラ書けるコツを伝授！保育実習の日記・指導案書き方まるわかりBOOK』ナツメ社、『子どもの理解と援助』一藝社、第3章執筆。『子どもの文化』共感共鳴共有すること、『神奈川県保育士実技講習会 言語表現』テキスト執筆。			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	20 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	30 %

2026年度 講義要綱

科目	保育内容演習・言葉		必修 講義	講師	遠藤 祐太郎、吉田 裕子
授業概要	[吉田先生]保育内容演習・言葉(該当6回) 認定絵本士養成講座科目を学び絵本への理解を深める。(該当9回)				
授業目標	<p>1. 養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。2. 子どもの発達を、保育所保育指針における乳児保育の3つの視点(「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものに関わり感性が育つ」と、1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育のそれぞれ5つの領域(「健康・人間関係・環境・言葉・表現」)を通して捉え、子どもに対する理解を深めながら、保育の内容について具体的に理解する。3. 上記2に示した保育の内容の視点及び領域を踏まえて、子どもが生活や遊びにおいて体験していることを捉えるとともに、保育に当たって保育士が留意、配慮すべき事項を理解する。4. 子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら、環境の構成、教材や遊具等の活用と工夫、保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)の実際について理解する。</p> <p>・乳幼児を対象とした絵本の特色を理解する。乳幼児が絵本に触れる為の具体的な取り組みについて理解する。・保育、教育の現場における絵本の意義について理解する。(認定:「絵本と出会う①」「絵本と出会う②」佐藤博美・佐藤めぐみ・遠藤祐太郎・竹島孝昭・松森照幸)・子どもの興味について理解する。絵本以外のメディアを知る。(認定:「子どもの心をとらえるもの」細江幸世)・場面や目的に応じた適切なブックトーク及びビブリオトークについて理解する。場面や目的に応じた適切なブックトーク及びビブリオトークの技術を体得する。(認定:「絵本を紹介する技術①」千葉幸 絵本を活用した表現活動について理解する。絵本を活用した表現活動の基礎的技術を体得する(認定:「絵本の世界を広げる技術①」江花志乃)・「おはなし会」について理解する。「おはなし会」のプログラム作成及び運営にかかわる手法を体得する。(認定:「おはなし会的手法①」近藤千春)・「おはなし会」のテクニックについて理解する。「おはなし会」のテクニックを体得する。(認定:「おはなし会的手法②」高田ちとせ)・相談者の要望に応じた絵本を提案する技術を体得する。絵本の提案の前提となる、絵本に係わる情報収集及び整理の方法について理解する。(認定:「絵本の世界を広げる技術③」江花志乃)・各年齢期の子どもの発達と絵本の関わりについて理解する。(認定:「絵本各論③」佐藤博美・佐藤めぐみ・竹島孝昭)</p>				
到達目標1	認定絵本士養成講座科目を学び絵本に関する総合的なプロデュース力を身につけることが出来る。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度・課題提出 50点		
到達目標2	[吉田先生]発達を理解し、それに合わせた言葉がけや遊びを習得する。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	[吉田先生]出授業への取り組み度・課題提出 50点		
授業方法					
授業計画	<p>1 【認定絵本士養成講座科目】「絵本と出会う①」担当:遠藤 祐太郎</p> <p>2 吉田先生①オリエンテーション 保育内容【言葉】とは何か 愛着形成について</p> <p>3 【認定絵本士養成講座科目】「子どもの心をとらえるもの」担当:細江幸世</p> <p>4 吉田先生②言葉の経験とわらべうた</p> <p>5 【認定絵本士養成講座科目】「絵本と出会う②」担当:遠藤 祐太郎</p> <p>6 【認定絵本士養成講座科目】「絵本を紹介する技術①」担当:千葉幸 課題提出</p> <p>7 吉田先生③伝わる言葉、伝わらない言葉</p> <p>8 吉田先生④気になる言葉の遅れがある子どもと保育内容と支援方法やグッズの紹介 オンライン</p> <p>9 【認定絵本士養成講座科目】「絵本の世界を広げる技術③」担当:江花志乃</p> <p>10 【認定絵本士養成講座科目】「おはなし会的手法①」担当:江花志乃 課題提出</p> <p>11 吉田先生⑤文字の取り組みについて 実践例と言葉遊び実践 オンライン</p> <p>12 【認定絵本士養成講座科目】「おはなし会的手法②」担当:高田ちとせ 課題提出</p> <p>13 吉田先生⑥まとめ 言葉がけの大切さ</p> <p>14 【認定絵本士養成講座科目】「絵本の世界を広げる技術①」担当:近藤千春 課題提出</p> <p>15 【認定絵本士養成講座科目】「絵本各論③」担当:遠藤 祐太郎</p>				
必須テキスト	【認定絵本士養成講座科目】 認定絵本士養成講座テキスト				
参考文献					
担当教員の専門分野等	<p>吉田裕子 ○佐藤めぐみ・佐藤博美・遠藤祐太郎・竹島孝昭・松森照幸:赤ちゃん絵本、ブックスタートなど地域での育児支援活動や家庭での絵本の読み聞かせの現状に精通した者・保育、幼児教育現場及び学校現場における子どもと絵本の関りの現状に精通した者・子どもの知的、社会的発達と絵本の関りに関する専門的知識を有する者 ○細江幸世:絵本作家、子ども向け番組作成従事者、児童文化に精通した者○千葉幸:図書館や学校などにおいてブックトーク及びビブリオトークの実践経験をもつ者 ○江花志乃:絵本検索に係るIT技術及び図書館レファレンスサービスの双方について専門的知識を有する者○近藤千春:絵本に関する「お話会の実践経験」を10年以上持つ者 ○高田ちとせ:絵本に関する「お話会の実践経験」を10年以上持つ者 ○江花志乃:あらゆる分野の絵本について精通しており、図書館または書店等において絵本の提案を行っている実践経験を持つ者</p>				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	30 %	

## 2026年度 講義要綱

科 目	保育内容演習・表現		必修 講義	講 師	竹田 えり
授業概要	手遊び・歌遊び・リズム遊びなどを通じて子どもの表現の育ちと保育者の役割について学ぶ。様々な応用を考え、表現の幅を広げていく。劇遊び、エプロンシアター、パネルシアターなどの演技バリエーションも学び実践する。				
授業目標	1. 養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。 2. 子どもの発達を、保育所保育指針における乳児保育の3つの視点と、5つの領域を通して捉え、子どもに対する理解を深めながら、保育の内容について具体的に理解する。 3. 子どもが生活や遊びにおいて体験していることを捉えるとともに、保育に当たって保育士が留意、配慮すべき事項を理解する。 4. 子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら、環境の構成、教材や遊具等の活用と工夫、保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)の実際について理解する。				
到達目標1	教育実習・就業先等で即実践できる歌遊びのレパトリーを広げ、現場で幅広く対応できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	到達目標1に対する評価(方法及び配点) ◆教科書やネットなどから新しく学んだ遊びを6作品以上、レパトリーとして習得すること。 自作の創作あそびも歓迎します。 授業への取り組み+授業時間内での課題提出(45点) +オリジナルの遊びなど創意工夫のある取り組み(5点) =合計(50点) 意欲的・積極的な取り組みを期待し、評価します。		
到達目標2	具体的な保育場面を想定し、常に元気な明るい表情と声で子どもと向き合うことができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	到達目標2に対する評価(方法及び配点) ◆どんな場面でも積極的に明るく笑顔で人前に立てるように意識し、授業内での発表や実技試験での表現力を通して評価する。実技試験(30点) ◆毎回の授業での発表では、グループ内で互いに協力しながら、工夫を凝らした表現を行う姿勢を重視する(20点) 計50点  到達目標1+2 合計 100点		
授業方法	実践の繰り返しを重視。教科書や参考文献などの歌遊び・劇遊び・パネルシアター等を学び表現力をつける				
授業計画	1 オリエンテーション(授業概要・目標・評価・持物等の説明) 2 2回目より、3～13回の内容を複合的に取り入れながら進めるが、各回の主題に応じて柔軟に組み合わせる。 3 色々な手遊び・歌遊び リズム遊び【1】 4 色々な手遊び・歌遊び リズム遊び【2】 5 色々な手遊び・歌遊び リズム遊び【3】 6 色々な手遊び・歌遊び リズム遊び【4】 7 わらべうた・手話ソング 8 タオルあそび 9 読み聞かせ 表現方法 朗読のバリエーション 10 エプロンシアター・てぶくろシアター 11 パネルシアター・ブラックパネルシアター・ホワイトボードシアター 12 劇遊び・オペレッタ 表現指導方法 13 劇遊び・オペレッタ(衣装作り・実演) 14 実技試験 15 総括 振り返り 卒業ソングなど				
必須テキスト	「あつまれハート」メイト社				
参考文献	CD「ハートキラキラ」「ハートハッピー」「ふれあいタオルあそび」全て図書室で利用可能。				
担当教員の専門分野等	長年にわたり保育士向けのセミナーや研修会で講習指導。手遊び・歌遊び・劇遊び・パネルシアターを研究。オペレッタ「いつまでもとどち」「北風と太陽」等 多数出版(メイト社)				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %	
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	30 %	

## 2026年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・言葉遊び I		必修 講義	講 師	なかむらしんいちろう
授業概要	[加藤陽子]手話を学ぶことにより表情やコミュニケーション能力を高め、聴覚障害者・児に対する接し方を学ぶ。(該当科目4コマ) 【認定絵本土養成講座科目】を学び、絵本への理解を深める。(該当科目11コマ)				
授業目標	<p>1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。</p> <p>2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。</p> <p>【認定絵本土養成講座科目】 「認定絵本土養成講座科目」を学び、絵本に関する総合的なプロデュース力を身につけることができる」 ・「絵本」をめぐる行為について理解する、「絵本」の定義の捉え方について理解する、「絵本」の多面性を理解するとともに、その可能性や課題を理解する(認定:「絵本総論」課題 中村真一郎・細江幸世) ・世界の絵本の歴史について理解する、日本の絵本の歴史について理解する、絵本賞について理解する(認定:「絵本各論①」課題 中村・細江) ・絵本の視覚表現特性について理解する、絵本の言語表現特性について理解する(認定:「絵本各論②」課題 中村・いのうちひろ・山田花菜・なかいかおり) 以下、文字数に制限があり未記入。</p>				
到達目標1	言葉に関する知識や技術を習得し実践できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み方や授業中の意欲的な学ぶ姿勢、課題提出など=合計(50点)		
到達目標2	【認定絵本土養成講座科目】認定絵本土養成講座科目を学び、絵本に関する総合的なプロデュース力を身につけることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への熱心な取り組み。課題のある場合は期日までに提出。50点【「絵本総論」「絵本各論①」「絵本各論②」「絵本各論④」「絵本が生まれる現場①」】は課題の提出必須。出席+課題提出で、【認定絵本土養成講座科目】に出席となります。		
授業方法	講義・実技				
授業計画	<p>1 【認定絵本土養成講座】絵本が生まれる現場② 担当:横山雅代</p> <p>2 【認定絵本土養成講座】絵本各論④(メディアとしての絵本の位置づけ)課題あり 担当:手塚けんじ</p> <p>3 【認定絵本土養成講座】絵本各論②(視覚表現、言語表現から見た絵本)課題あり 担当:中村</p> <p>4 手話① 担当:加藤陽子</p> <p>5 5/27【認定絵本土養成講座】絵本のもつ力(様々な角度から絵本を見る) 担当:なかいか</p> <p>6 【認定絵本土養成講座】さまざまなジャンルの絵本②(昔話童話の絵本) 担当:横山</p> <p>7 手話② 担当:加藤陽子</p> <p>8 手話③ 担当:加藤陽子 *オンライン</p> <p>9 【認定絵本土養成講座】絵本総論(絵本とは何か)課題あり 担当:細江</p> <p>10 【認定絵本土養成講座】心に寄り添う絵本 担当:細江幸世</p> <p>11 手話④ 担当:加藤陽子 *オンライン</p> <p>12 【認定絵本土養成講座】さまざまなジャンルの絵本③(科学絵本) 担当:手塚けんじ</p> <p>13 【認定絵本土養成講座】さまざまなジャンルの絵本①(物語の絵本) 担当:なかいかおり</p> <p>14 【認定絵本土養成講座】絵本各論①(絵本の歴史、絵本賞について)課題あり 担当:細江</p> <p>15 【認定絵本土養成講座】絵本が生まれる現場①(作家の感性に触れる) 課題あり 担当:なかいか</p>				
必須テキスト	【認定絵本土科目】認定絵本土養成講座テキスト				
参考文献	【認定絵本土科目】適宜紹介する。				
担当教員の専門分野等	<p>【加藤】「実務経験のある教員による授業」【認定絵本土養成講座担当講師】 ○中村・細江:絵本をめぐる活動に精通した者/絵本の歴史や絵本賞に関する専門的知識を有する者/絵本の視覚表現・言語表現に関する専門的知識を有する者/絵本作家、童話と作家して豊富な経験を持つ者/物語を内容とした絵本に関する専門的知識を有する者/昔話・童話を題材にした絵本に関する専門的知識を有する者 ○いのうちひろ・山田花菜・なかいか:絵本の視覚表現・言語表現に関する専門的知識を有する者/絵本作家、童話作家として豊富な経験を持つ者/物語を内容とした絵本に関する専門的知識を有する者/絵本作家、絵本の研究者、絵本をめぐる活動全般に精通した者 ○手塚けんじ:情報メディアとしての絵本の特性および我が国著作権制度と絵本の関わり、電子書籍と脳科学に関する専門的知識を有する者/科学絵本などに関する専門的知識を有する者など ○横山雅代:絵本・紙しばい、児童文学の編集業/昔話・童話を題材にした絵本に関する専門的知識を有する者、以下文字数に制限があり未記入。</p>				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	0 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	0 %	
	社会人としての基本	0 %	主体性 素直 思いやり	0 %	
	他者と関わる力	0 %	専門的知識・技術	100 %	

## 2026年度 講義要綱

科 目	子育て支援 必修 講義		講 師	今泉 岳雄
授業概要	保育の専門性とは何かを理解し、保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援や、支援機関や支援対象の特性に応じた支援内容について、具体的に学んでいく。			
授業目標	1. 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援(保育相談支援)について、その特性と展開を具体的に理解する。 2. 子どもや保護者が抱える発達や精神上的の問題や、それに応じた専門機関の特性や連携の仕方を理解する。			
到達目標1	保育士の行う保護者に対する子育て支援の内容や方法、また保護者と関わる時に表出されやすい自分の性格特性について具体的に説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	(1)授業内発表15点 (2)レポート35点	
到達目標2	子育て支援の対象となる保護者や子どもの問題に応じた支援方法や子育て支援を行っている機関の種類について具体的に説明できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	(1)授業内発表15点 (2)レポート35点	
授業方法	講義、ディスカッション、ロールプレイ、映像視聴、事例検討			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 保育の特性、保育士の業務、保育所における子育て支援、保護者との信頼関係形成のための保育者の態度について学ぶ。</li> <li>2 保護者や家庭の現状、保護者の状況に配慮した個別の支援プロセス、エコマップの作成等について学ぶ。</li> <li>3 エゴグラムを通して自分の特性を理解する。</li> <li>4 保護者支援に必要な情報をどのように得て支援に結びつけるかを学ぶ。</li> <li>5 認知行動療法やプロセスレコードの体験を通してストレスの対処や自分を知る。</li> <li>6 保護者支援のためのカウンセリングの知識について学ぶ。</li> <li>7 カウンセリングをロールプレイで体験するとともに、カウンセリング内容を記録する。</li> <li>8 子育て支援機関にどのようなものがあるか、またその役割や連携について学ぶ。</li> <li>9 虐待の実態と子どもに及ぼす影響、対応について学ぶ。</li> <li>10 どのような要因が保護者・保育者間のトラブルになるか、その予防や対応について考える。</li> <li>11 保護者が発達障害、神経症、うつ病、境界性人格障害、統合失調症を抱えている場合の理解と支援について学ぶ。</li> <li>12 子どもの知的障害、自閉症スペクトラム障害、注意欠如・多動性障害、学習障害に等について理解し、支援について学ぶ。</li> <li>13 子どもの分離不安障害、緘黙、強迫性障害、心的外傷後ストレス障害、うつ病、チック、吃音、転換性障害、指しゃぶり等についてその背景と支援について学ぶ。</li> <li>14 目標の設定、支援内容や方法の計画、支援の実践、記録、評価について学ぶ。</li> <li>15 今まで学んだ内容のポイントを確認する。</li> </ol>			
必須テキスト	テキストなし。毎回の授業前にteamsに資料を掲載するので読んでおくこと。			
参考文献	「子育て支援」 公益財団法人児童育成協会監修 西村重稀他編集 中央法規、授業中に適宜紹介、配布。			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員の授業」臨床心理学専門。臨床心理士、公認心理師。神奈川県立の児童相談所、児童自立支援施設、日赤医療センター、東北文教大学(教授)などに勤務。「心理学のエッセンス」(日本評論社)、「ハッピー育児セラピー」(学習研究社)、「パパにもわかる子育ての本」(実業之日本社)、「お母さんひとりで悩まないで」(講談社)、他出版。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20%	社会の動きに関心を持ち学び続ける力	10%
	社会人としての基本	10%	主体性 素直 思いやり	10%
	他者と関わる力	20%	専門的知識・技術	30%

## 2026年度 講義要綱

科 目	保育実践演習 <div style="text-align: center;">必修 演習</div>	講 師	石原 成	
授業概要	保育に関する興味のある様々なテーマについて、幅広い視野をもって、主体的に関わる姿勢を養う。興味のあるテーマについて調査、分析、考察、発表を行う。テーマ設定について、他者に根拠を明確に示し、伝える能力を身に付ける。また、ディスカッションを通して、他者の意見を取り入れながら問題の解決の糸口を見つけ出し、方法を体験的に学ぶ。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 指定保育士養成施設における教育課程の全体を通して、保育士として必要な保育に関する専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等が習得、形成されたか、自らの学びを振り返り把握する。</li> <li>2. 保育実習等を通じた自らの体験や収集した情報に基づき、保育に関する現代的課題についての現状を分析し、その課題への対応として保育士、保育の現場、地域、社会に求められることは何か、多様な視点から考察する力を習得する。</li> <li>3. 1及び2を踏まえ、自己の課題を明確化し、保育の実践に際して必要となる基礎的な資質・能力の定着をさせる。</li> </ol>			
到達目標1	保育現場における現代的テーマについて、考察することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	ワークシート記入および提出(50点)	
到達目標2	テーマについて、調査・分析・考察・プレゼンテーションする技術、能力を身に付けることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	課題提出及びプレゼンテーション能力(50点)	
授業方法	これまでの自らの学習を各自が振り返り、グループ討論や個別指導を交え、自身が興味のあるテーマについて調査をし、まとめ、発表をする演習中心の授業である。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション～保育実践演習の進め方、テーマの方向性を考える～</li> <li>2 テーマの設定～関心を明確にする～</li> <li>3 テーマの決定～関心の深め方～</li> <li>4 中間発表に向けての個別指導及びレジュメの作成(文献検索)</li> <li>5 中間発表に向けての個別指導及びレジュメの作成①</li> <li>6 中間発表に向けての個別指導及びレジュメの作成②</li> <li>7 中間報告及びディスカッション</li> <li>8 中間報告を踏まえ、最終発表に向けた課題の点検、個別指導、レジュメ作成及び発表準備①</li> <li>9 最終発表に向けた課題の点検、個別指導、レジュメ作成及び発表準備②</li> <li>10 最終発表に向けた課題の点検、個別指導、レジュメ作成及び発表準備③</li> <li>11 発表①(7人)発表時間:6～7分 質疑応答2～3分</li> <li>12 発表②(7人)発表時間:6～7分 質疑応答2～3分</li> <li>13 発表③(7人)発表時間:6～7分 質疑応答2～3分</li> <li>14 発表④(7人)発表時間:6～7分 質疑応答2～3分</li> <li>15 発表⑤(7人)発表時間:6～7分 質疑応答2～3分、総評</li> </ol>			
必須テキスト	特に指定なし 適宜資料を配布する			
参考文献	特になし 適宜紹介する			
担当教員の専門分野等	幼稚園教諭及び保育士資格を持ち、長年保育所での実務経験			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	15 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	30 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	15 %	専門的知識・技術	20 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	子どもと遊び 選択必修 講義	講 師	荒巻 シヤケ	
授業概要	講師の専門のあそび歌を中心にしながら、布・紙など身近な物を使った遊び、アナログゲーム、パネルシアターなど様々な遊びを実際に体験する中で、遊びについてじっくり考えたり、グループワークを通して視野を広げていく。 また、あそび歌・パネルシアターにおいては、学んだことを実践につなげられるように発表の機会を設けて、実践力も身につけていく。 この授業を通して、子どもと遊びの世界の面白さを一緒に共有しましょう。			
授業目標	①大人が主導するのではなく、子どもと相互にやり取りして一緒に創るあそび力を身につける。 ②一つの遊びをいろんな角度で見て、遊びの視野を広げていく。 ③パネルシアターの世界を体験し、実際に演じる力を身につける。			
到達目標1	授業内で自ら積極的に遊びに参加しようとする。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	遊びへの積極度 30点 グループ討議への積極度 20点	
到達目標2	授業内容を理解し振り返ったり実践しようとする。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	発表への積極度 30点 振り返りシート提出 20点	
授業方法	○授業毎のテーマに合わせて実際に遊びながら学ぶ。 ○講師の実践経験談から、子どもと遊びの世界を知る。			
授業計画	<p>1 授業の内容説明。 自己紹介。 あそび歌で遊んでみる。</p> <p>2 一回目の復習をしながら、手遊びについて遊びながら考えたり、グループで創作する。</p> <p>3 オンラインでのあそび歌を体験する。 また講師の実践エピソードからも考える。</p> <p>4 布を使ったあそび歌で遊びながら、遊びの意識について考える。</p> <p>5 ①～③で学んだことを活かして、実際にあそび歌でのやり取りを実演発表する。</p> <p>6 伝承の折り紙や簡単な紙のおもちゃを作って遊ぶことで身近な物で工夫して遊べることを知る。</p> <p>7 絵本の読み聞かせについてあらためて考えたり、赤ちゃん絵本の世界に着目してみる。</p> <p>8 ある認定こども園の映像から遊びの環境設定について考えてみる。</p> <p>9 3歳～小学生くらいまでの年齢で遊べるアナログゲームで遊んで、楽しさを実感する。</p> <p>10 パネルシアターとはそもそもどんな教材?という基本的なことからまず知ろう。 講師のパネルシアターの実演を見て体験しよう。</p> <p>11 3つの課題作品の中からそれぞれが選んだ作品を作ってみよう</p> <p>12 グループに分かれて、自分の作ったパネルシアターを演じる練習をしてみよう。 発表に向けてグループ決めと話し合い。</p> <p>13 今までの授業も振り返りながら、最終課題である、授業の成果発表について、グループごとに相談する。</p> <p>14 発表に向けて準備を進めましょう</p> <p>15 あそび歌とパネルシアターについて学んだことを活かしながら、グループごとに発表してもらおう。</p>			
必須テキスト	教科書はありませんが、パネルシアターのキットを授業内で別途購入してもらいます。価格は2000円程度です。			
参考文献	必要がある場合は授業内で紹介、もしくは資料として配布します。			
担当教員の 専門分野等	保育現場で正規保育士として6年の実務経験。 保育シンガーソングライターとして、あそび歌を通しての実践経験15年。 年間に180公演ほどの園であそび歌ライブを実施している。			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	30 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	子どもの食と栄養実習 選択必修 講義	講 師	太田 昌子	
授業概要	「子どもの食と栄養」の講義で学んだことを基礎として、実際に献立の作成や調理を行う。 乳児期の母乳栄養から離乳食、幼児期の食事に変化する経緯を学び、子どもの身体的特性に応じた調理形態を理解する。 幼児期の食事計画を、媒体を通じて、子どもや保護者に明確に伝えられるように、食育計画を立案し、実施する。			
授業目標	1. 子どもの発育・発達に応じた調理形態や食事形態を理解できる。 2. 乳幼児期の食事計画を立案し、実施することができる。			
到達目標1	子供の食について口腔機能の発達と食事形態を理解し、離乳食や幼児食が作ることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	離乳食・幼児食実習への取り組みおよび課題の提出 (50点)	
到達目標2	子供の食の問題について考え、問題を改善するための食育を行うことができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	食事計画の立案および報告資料の作成 (50点)	
授業方法	子どもの発育や発達に応じた調理形態を学ぶ調理実習を行う。 食事計画の立案および報告資料の作成を行う。			
授業計画	1 オリエンテーション 乳汁栄養1 発育・発達に応じた育児用ミルクの成分組成比較 2 乳汁栄養2 調乳実習 3 離乳食におけるだしの取り方 4 調乳食の作成1(ごはん) 離乳初期、離乳中期、離乳後期、離乳完了期の4段階に分けたごはんを作成する。 5 離乳食の作成2(野菜) 離乳初期、離乳中期、離乳後期、離乳完了期の4段階に分けたごはんを作成する。 6 ベビーフードの特徴と利用法 7 幼児期の食事1 1～2歳(スプーンとフォークを使った食事) 8 幼児期の食事2 3～5歳(お箸を使った食事) 9 幼児期の食事3 クッキング保育 10 幼児期の食事4 食育だよりの作成 11 行事食の理解 12 食事における栄養価計算 13 食物アレルギーに関する理解 14 嚥下調整食の作成 15 児童福祉施設における食事と栄養(事例検討)			
必須テキスト	新・子どもの食と栄養、教育情報出版、ISBN978-4-909378-37-8(1年次の講義で使用したテキスト)			
参考文献				
担当教員の専門分野等	基礎栄養学(栄養素に関する理解が深まると、栄養成分表示から多くの情報が読み取れるようになります。)			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	20 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	合唱と合奏 選択必修 講義		講 師	上田 亜津子、大須賀 かおり、木下 裕子、高 山 美帆、渡辺 容子
授業概要	1年次に学んだ子どもの歌を中心としたレパートリーについてどのように現場で子どもたちと楽しんでいくか、自ら工夫しながら、コードによる簡易伴奏も含めより良い支援の方法を身に付けていきます。1・3・5・7・9・11・13・15の8回がピアノ個人レッスン、2・4・6・8・10・12・14の7回が全体授業での歌遊びのコマとなります。歌遊びの全体授業では、後半を必ずピアノの自主練習に充て、翌週のピアノの予習を行います。担当講師1名のため、活発に質問を行いながら進めてください。レパートリーを増やして実習に向けて実践力を養っていきましょう。			
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容とねらいを理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を自身のスキルに合わせて自ら工夫して実践的に習得する。 2. 保育現場で活用できる教材を中心に、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。			
到達目標1	個人レッスン(ピアノ等)では保育実習に向けて生活の歌や現場ですぐ楽しめる曲を2〜3曲仕上げる事が出来る。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業日以外での積極的な自主練習と授業への積極的な取り組み(20点)・実技試験(30点)	
到達目標2	全体授業では、環境、生活、人間関係等、様々なねらいに応じた歌遊びの現場での楽しみ方を身に付け、またハーモニー(合唱)を演習し、互いに聞き合い、協働の喜びを共有することが出来る。また授業後半の全員参加のA52教室・その他レッスン室での個人練習に意欲的に取り組むことが出来る。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	クラス全体での歌遊びや合唱への積極的参加・自主練習への能動的な取り組み(20点)実技試験(30点)	
授業方法	・15回の授業を交互に、④小グループでのピアノを中心とした個人レッスン ⑤全体での歌遊び(但し後半はピアノの自主練習にあてる。)に設定し交互に受講する。・15回を通して進度表に必ず自身の振り返りを記入し、各担当講師との円滑な協働を図っていきましょう。 ・実技試験の日程については各講師から発表される			
授業計画	1 ④ピアノ個人レッスン:教務より発表される小グループに分かれ、ピアノ個人レッスン室にて、オリエンテーション・進度表配布・ピアノレッスン。 2 ⑤全体授業。現場で役立つ声の出し方(呼吸法・発声法)子どもの歌や合唱、リズム遊び等の演習。以下同様。 3 ④ピアノ個人レッスン 4 ⑤全体授業。以下同様。 5 ④ピアノ個人レッスン 6 ⑤全体授業。以下同様。 7 ④ピアノ個人レッスン 8 ⑤全体授業。以下同様 9 ④ピアノ個人レッスン 10 ⑤全体授業 以下同様 11 ④ピアノ個人レッスン 12 ⑤全体授業 以下同様 13 ④ピアノ個人レッスン 14 ⑤全体授業 実技試験発表とフィードバック 15 ④ピアノ個人レッスン実技試験発表(個人レッスンの小グループで行います。) ・フィードバック			
必須テキスト	『現場で役立つ幼稚園教諭・保育士の為のピアノ入門』ドレミ出版 『ポケットいっぱいの子』教育芸術社 ※対面時は”有線イヤフォンorヘッドフォン”をお持ちください			
参考文献	日本児童教育専門学校編『はじめての弾き歌い』日本児童教育専門学校編 『子どもの指導法「音楽表現」』豊岡短期大学			
担当教員の 専門分野等	専任:木下裕子 東京藝術大学卒業。公財日本オペラ振興会育成部第6期修了。声楽、ピアノ、合唱指導、リトミック指導。日本ダルクローズ音楽教育学会、全日本リトミック音楽教育研究会会員。			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	15 %
	他者と関わる力	15 %	専門的知識・技術	40 %

2026年度 講義要綱

科目	保育教材研究 選択必修 講義		講師	廣田 篤憲
授業概要	現場で役に立つ実践的な課題を制作し、造形の技法を身につけその能力を高め指導者としての能力を養い身につけ、絵画造形の技法をより高めるように習得する。			
授業目標	<p>1. 幼児の造形教育の背景について理解し、育みたい「資質・能力」を知り、幼児期の終わりまでに育って欲しい姿を目標として、その基礎的な造形能力・表現力および指導方法を身につける。</p> <p>2. 造形における教材・素材等の活用及び作成と、造形教育の環境の準備構成、指導現場で展開できる技術と表現力を実践的に習得する。</p> <p>3. 子どもが生活や造形遊びにおいて体験していることを捉え、造形教育で留意、配慮すべき事項を理解する。</p> <p>4. 子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら、環境の構成、教材等の活用と工夫、保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)の実際について理解する。</p>			
到達目標1	到達目標1. 子どもの造形活動について理解し、造形能力の発達段階に応じた造形指導ができるようになる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(20点)、制作した作品への取り組み(30点)	
到達目標2	保育現場を考慮し、子どもの造形能力に応じた、造形環境を準備し造形遊びの内容を構成することができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	作品の制作の指導方法の理解(30点)、造形環境の準備内容の把握(20点)	
授業方法	準備された画材・素材を使用して造形作品を制作しつつ、現場での指導方法を考え習得する。多種多様な表現方法を学び身につける。			
授業計画	<p>1 保育における造形表現の意味、造形表現の基礎知識(色彩、画材などの基礎知識)、幼児の造形教育のねらいと方法(教材、素材の活用などについて) ・教科書:P.112~P.119</p> <p>2 画用紙とクレヨン・クレパスを使って、虹色の形を作ろう(指を使って画材の特性を知る) ・教科書:P.58</p> <p>3 紙コップを使ってタコを作る(紙コップを色画用紙で巻く方法) ・教科書:P.80</p> <p>4 画用紙をZ折りにして、展開して変化することを楽しむ絵を描く ・教科書:P.140</p> <p>5 カップ麺の容器を使ってカメを作る ・教科書:P.94</p> <p>6 バチック(はじき絵)、油性のクレヨンと水彩絵の具の性質を生かして ・教科書:P.56</p> <p>7 ペットボトルを使って輪投げのピンを作り、新聞紙で輪投げの輪を制作する。 ・教科書:P.182</p> <p>8 色画用紙を使ってアニマルフェイスのペーパークラフト ・教科書:P.144、P.145</p> <p>9 発想を形にする:自由なイメージでの制作 ・教科書:P.136</p> <p>10 マーブリングで紙に模様をつけ魚釣り遊びのおもちゃを制作する:その1。 和紙ハガキを使ってマーブリング制作 ・教科書:P.117、P.126</p> <p>11 マーブリングで紙に模様をつけ魚釣り遊びのおもちゃを制作する:その2。 マーブリングを施した紙を使って魚の工作、竹ひごなどを使って釣り竿作り ・教科書:P.177</p> <p>12 にじみ絵の技法を使ってシャボン玉を表現する1。 ・教科書:P.147</p> <p>13 にじみ絵の技法を使ってシャボン玉を表現する2。 ・教科書:P.147</p> <p>14 色画用紙を使って、動くペーパークラフトの制作、その1。 ・教科書:P.142、P.145</p> <p>15 色画用紙を使って、動くペーパークラフトの制作、その2。 ・教科書:P.142、P.145</p>			
必須テキスト	幼児造形の基礎 萌文書林 著者:樋口一成 編著			
参考文献				
担当教員の専門分野等	多摩美術大学グラフィックデザイン科卒業 中・高等学校美術科教諭を経てイラストレーション、機械式腕時計内部の鉛筆細密デッサン、立体作品、ペーパークラフト、アーマチュアの制作、アートディレクションなど			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	50 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・身体表現遊びⅡ 選択必修 講義		講 師	菊池 一英
授業概要	子どもの遊びは生活そのものであることを学びます。また、様々な遊びを通して、保育実践力を身に付けます。			
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。			
到達目標1	1. 様々な身体表現遊びを経験し、子ども達の前で柔軟に対応できるようになる。 2. 実技とDVD視聴により、様々な遊びの指導方法を身に付けることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	実技種目への貢献度(30点)身体表現遊びの表限度(20点)	
到達目標2	3. 企画会議に参加し、独自の運動会を計画・立案する。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	企画会議への参加度(30点)運動会の企画立案のプレゼン力(20点)	
授業方法	実技科目に参加する。運動会企画会議を立ち上げ、企画、立案をプレゼンテーションをする。			
授業計画	1 身体表現遊びで何を育てるのか？(オリエンテーション) 2 ふれあい遊びいろいろ(ラブラブ握手他) 3 プール、水遊びいろいろ※オンライン 4 身体表現としての手遊びいろいろ 5 身体表現遊びいろいろ(洋風おべんと箱他) 6 集団遊びいろいろ(ワン、ニャン、ブー仲間よ集まれ他) 7 身体表現遊びいろいろ(洋風おべんと箱他) 8 絵本から展開する身体表現※オンライン 9 身体表現まねっこ歩き(BGMに合わせて表現) 10 運動会に向けての企画会議(1) 11 ファンタジーと身体表現あそび<DVD> 12 運動会に向けての企画会議(2) 13 運動会に向けての企画会議(3) 14 運動会に向けての企画会議(4) 15 運動会に向けての企画会議(5)(プレゼンテーション)			
必須テキスト	特に指定なし			
参考文献	『仲間づくりのためのおもしろゲーム遊び』メイト 菊池一英著			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。保育所に副園長兼保育士として長年勤務。現在幼児体育講師として保育所にスーパーバイザーとして非常勤勤務。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	30 %	専門的知識・技術	20 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・造形遊びⅡ		選択必修 講義	講 師	目黒 祥元
授業概要	保育教材等を使用した制作と展開を実習する 制作した作品は提出していただき、評価資料とします。構内の壁面装飾にも使用します。				
授業目標	1年で学んだことを基礎にしつつ、幼児造形の枠にとらわれない教材や技術も取り入れて実習し応用力を養う				
到達目標1	画材の管理、進行状況の把握など、実習に必要な準備とプロセスを主体的に計画し取り組めるようになる。基礎技術を基にして発展的な取り組みもできるようになる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	課題の提出と取り組み方が主体的にできている(30点) 提出作品の評価(20点)		
到達目標2	課題に自分なりの工夫を、どのように落とし込んでゆかかを考えて実習を通じて楽しめるようになる。準備から片付けまでが造形遊びの大切な取り組みであると考えて、必要な配慮ができるようになる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	課題制作や壁面装飾などにおいて、主体的にアイデアを出して取組みができている(30点) 制作の展開を考えて必要な準備と片付けができている(20点)		
授業方法	<p>全て実習を行います。準備と後片付けまでを授業時間内に行い、持ち帰りの制作は原則認めません。 課題作品の提出は、原則授業内に受け付けます。 課題は壁面装飾として展示にも使用します。</p> <p>* 状況により授業内容の予定は、変更する場合があります</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 後期の授業の進め方と内容の説明、準備などの後おもちゃ作り</li> <li>2 版画の説明と版作り</li> <li>3 オンライン</li> <li>4 インクで刷る 作品を使った壁面装飾をする</li> <li>5 いくつかのグループに分かれて、それぞれ意見を出し合い調整して一つのお店をテーマに制作するダンボール、各種用紙、パルプ粘土を主体に、ごっこ遊びを想定したお店を作る 時間をかけて1つの課題に取り組む</li> <li>6 いくつかのグループに分かれて、それぞれ意見を出し合い調整して一つのお店をテーマに制作するダンボール、各種用紙、パルプ粘土を主体に、ごっこ遊びを想定したお店を作る 時間をかけて1つの課題に取り組む</li> <li>7 いくつかのグループに分かれて、それぞれ意見を出し合い調整して一つのお店をテーマに制作するダンボール、各種用紙、パルプ粘土を主体に、ごっこ遊びを想定したお店を作る 時間をかけて1つの課題に取り組む</li> <li>8 オンライン 紙粘土 ごっこ遊びにの店で使用するものを作る</li> <li>9 いくつかのグループに分かれて、それぞれ意見を出し合い調整して一つのお店をテーマに制作するダンボール、各種用紙、パルプ粘土を主体に、ごっこ遊びを想定したお店を作る 時間をかけて1つの課題に取り組む</li> <li>10 いくつかのグループに分かれて、それぞれ意見を出し合い調整して一つのお店をテーマに制作するダンボール、各種用紙、パルプ粘土を主体に、ごっこ遊びを想定したお店を作る 時間をかけて1つの課題に取り組む</li> <li>11 課題を完成させて、展示する</li> <li>12 モダンテクニックをベースにクリスマスの装飾を考えて作る</li> <li>13 モダンテクニックをベースにクリスマスの装飾を考えて作る</li> <li>14 普段使用していないものを使ってお絵描き</li> <li>15 お絵描き</li> </ol>				
必須テキスト	指定なし				
参考文献	幼児造形にとらわれず美術造形一般にも興味関心を持ってほしい				
担当教員の専門分野等	美術家				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	15%	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10%	
	社会人としての基本	20%	主体性 素直 思いやり	15%	
	他者と関わる力	15%	専門的知識・技術	25%	

## 2026年度 講義要綱

科目	保育内容の理解と方法・言葉遊びⅡ	選択必修 講義	講師	奥谷 敏彦、本多 ちかこ、古川 真由美
授業概要	[奥谷]いろいろな言葉遊びを知り、保育に役立つ教材を制作する。 [本多]紙芝居の特性を知り、演じ方と制作を学ぶ。 [古川]パネルシアターの特徴と魅力を知り、自分が実際に使用できるパネルシアターを制作する。			
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。			
到達目標1	[奥谷]1. 言葉遊びを楽しみ、そのユーモアやセンスを理解できる。 2. 言葉遊びを使ったパズルや迷路など、教材を制作することができる。 [本多]1. 言葉遊びの紙芝居を制作することができる。 2. 紙芝居の特性を知り、演じることによって、子どもと楽しくコミュニケーションをとることができる。 [古川]1. パネルシアターの特徴を知り、言葉の発達における影響や効果について理解する。 2. 自分が実際に使用できる作品を制作し、子どもとの関わりに生かす方法を具体的に示す事ができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	作品、発表、授業の取り組みを講師それぞれで評価し、合算して算出します。 (奥谷先生100点+本多先生100点+古川先生100点)÷3	
到達目標2		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)		
授業方法	※授業計画の順番はクラスにより異なります。別紙オムニバス科目授業日程をご確認ください。 [奥谷]講義、作品制作□ [本多]紙芝居制作と実演のワークショップ及び講義 [古川]パネルシアター制作。講義。			
授業計画	1 [奥谷]1 はじめに～アクロスティック自己紹介・・・いろいろな言葉遊びを概観し、アクロスティックで自己紹介文を制作します。 2 [奥谷]2 ことばにかくれたどうぶつたち・・・イラストを使った言葉さがしのパズルを制作する 3 [奥谷]3 ことばあそびの詩・・・いろいろな言葉遊びの詩を鑑賞する 4 [奥谷]4 しりとりめいろ・・・しりとりを使ってめいろを制作する 5 [奥谷]5 ふしぎなてがみ・・・暗号を使った手紙や絵手紙を制作する 6 [本多]1 さまざまな紙芝居を見よう 7 [本多]2 紙芝居を作ってみよう 8 [本多]3 実演のポイントを知ろう 9 [本多]4 紙芝居の歴史と特性を知ろう 10 [本多]5 舞台を使って演じてみよう 11 [古川]1 パネルシアターの特性を知り、自分の作る作品を決定します。 12 [古川]2 制作1 13 [古川]3 制作2 14 [古川]4 制作3 課題提出 15 [古川]5 保管方法・アレンジ方法を学びます。			
必須テキスト	特になし			
参考文献				
担当教員の専門分野等	奥谷:イラストレーター、デザイナー 本多:紙芝居の実演、作家 古川:イラストレーター・パネルシアターの制作			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	0 %	主体性 素直 思いやり	0 %
	他者と関わる力	0 %	専門的知識・技術	60 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	保育実習指導Ⅱ 選択必修 講義	講 師	遠藤 祐太郎	
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育実習Ⅰについて、グループディスカッション・個人面談・実習体験発表を通じて振り返り、評価・反省に基づいて自己課題を理解し必要な学習に取り組む</li> <li>・保育実習Ⅱで臨む部分実習、責任実習のための準備を行う</li> </ul>			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。</li> <li>2. 実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。</li> <li>3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。</li> <li>4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。</li> <li>5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。</li> </ol>			
到達目標1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に必要な話し合いや発表に積極的に参加し、学んだ知識を活かして自己学習に取り組むことができる。</li> <li>・課題を期日内にきちんと提出することができる。</li> <li>・責任実習全日指導計画を書けるようになる。</li> </ul>	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	試験「責任実習全日指導計画」(30点)、課題提出(20点)	
到達目標2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・責任実習、部分実習のために保育教材の制作および指導案の立案が出来る。</li> <li>・模擬保育の実践発表を責任を持って行うことが出来る。</li> </ul>	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	模擬保育の準備・発表(30点)、模擬保育指導案(20点)	
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義、演習(グループワーク)および実技・発表</li> <li>・保育実習Ⅰの振り返りとともに模擬保育の実践、責任実習指導案を完成させるための自己学習</li> </ul>			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業オリエンテーション(授業概要・目標・評価方法・持ち物等の説明)</li> <li>2 主活動の指導計画 保育実習ⅠとⅡの違いを知る</li> <li>3 指導計画について</li> <li>4 個人票の下書き</li> <li>5 保育現場職員とのワークショップ</li> <li>6 模擬保育に向けて①(作って遊ぶ活動の選択/ねらい)</li> <li>7 模擬保育に向けて②(教材準備)</li> <li>8 模擬保育に向けて③(導入の意味)</li> <li>9 模擬保育に向けて④(材料の配布・説明・遊びの展開)</li> <li>10 試験と模擬保育の発表について確認</li> <li>11 試験「責任実習全日指導計画」</li> <li>12 模擬保育実践1</li> <li>13 模擬保育実践2</li> <li>14 模擬保育実践3</li> <li>15 確認事項等(中間評価について、心構え)</li> </ol>			
必須テキスト	保育実習指導1aで使用した「千春と大吾の保育実習ストーリー」			
参考文献	授業中に適宜紹介			
担当教員の専門分野等	幼稚園教諭または保育士としての実務経験があり、幼稚園教諭免許状及び保育士資格をもつ教員が、その経験に基づいた指導を行う			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	5 %
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	5 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	障害児保育 必修 講義	講 師	今泉 岳雄	
授業概要	障害児保育を支える理念や各障害の特性を理解し、保育現場やその他の場において、障害児やその保護者をどのように支援していったらよいかを学ぶ。			
授業目標	①障害児保育を支える理念を身につける。 ②各障害の特性や支援方法を理解する。 ③障害児やその保護者を援助するための指導計画を作成できる。			
到達目標1	障害児保育を支える理念を身につけ、障害児やその保護者を援助するための指導計画を作成できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	(1)授業内発表15点 (2)レポート35点	
到達目標2	各障害の特性や支援方法を説明できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	(1)授業内発表15点 (2)レポート35点	
授業方法	講義、映像視聴、グループワーク			
授業計画	1 障害の捉え方と障害児保育の歴史 2 障害児保育の基本 3 発達障害の理解と支援① 4 発達障害児の理解と支援② 5 発達障害児の理解と支援③ 6 障害児を持つ保護者や家族に対する支援 7 知的障害の理解と支援 8 肢体不自由児の理解と支援 9 視覚障害・聴覚障害児の理解と支援 10 その他の特別な配慮を要する子どもや保護者の理解と支援 11 てんかんの理解と支援 12 知的に高い自閉症スペクトラム障害の映像視聴 13 言語障害・病弱・虚弱・食物アレルギーを持つ子どもや保護者の理解と支援 14 障害児保育を支える記録・評価・支援計画 15 障害のある子どもの保育にかかわる 現状と課題			
必須テキスト	なし。授業中に適宜紹介、配布。授業内容に関する資料はteamsにその回ごとに掲載。			
参考文献	「障害児保育・・・子どもとともに成長する保育者を目指して・・・」藤永保監修 阿部五月他著 萌文書林			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員の授業」臨床心理学専門。臨床心理士、公認心理師。神奈川県立の児童相談所、児童自立支援施設、日赤医療センター、東北文教大学(教授)などに勤務。「心理学のエッセンス」(日本評論社)、「ハッピー育児セラピー」(学習研究社)、「パパにもわかる子育ての本」(実業之日本社)、「お母さんひとりで悩まないで」(講談社)、他出版。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20%	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	20%
	社会人としての基本	10%	主体性 素直 思いやり	10%
	他者と関わる力	20%	専門的知識・技術	20%